

讃美歌21 50

EG193 T/M Martin Luther

1 みことばもて主よ、われらを支えて  
打ち砕きたまえ、主にそむく悪を。

1 Erhalt' uns, Herr, bei deinem Wort  
Und steure deiner Feinde Mord,  
Die Jesus Christus deinen Sohn,  
Wollen stürzen von deinem Thron.

2 示したまえ主よ、この世に力を。  
主こそわが砦、われら主をたたえん。

2 Beweis dein Macht, Herr Jesu Christ,  
Der du Herr allen Herren bist;  
Beschirm dein arme Christenheit,  
Dass sie dich lob in Ewigkeit.

3 聖霊をくだして ひとつとしたまえ。  
終わりのときには いのちをたまえや

3 Gott heiliger Geist, du Tröster wert,  
Gieb dein Volk einerlei Sinn auf Erd  
Steh bei uns in der letzten Not,  
G'leit uns ins Leben aus dem Tod.

# 「メガ・プラットフォームの衝撃」

ヨハネによる福音書 8:32

「あなた方は真理を知り、真理はあなた方を自由にします。」

21世紀の現在、「メガ・プラットフォーム」(特にGAFA)が登場しました。これは。超人的な性能を持ち、国境を超え、人々の情報によって成長する巨大データシステムです(次頁参照)。

AI(人工知能)が発達し、ビッグデータが発達するなか、現代人には、世界で生きて働かれる神様という存在が想像できなくなり、巨大なデータシステムとの類比でしか、理解できなくなっているのかもしれない。

デジタル技術の急速な展開に対し、神様と巨大なデータシステムとは、どこが違うのかという問いに、私たちは、答えねばならないと思います。

キリスト教の神学では、神様がどこにもおられるという考え方を、「神の遍在」という言葉で表現します。これは、神様は全てをご存じだという考え方でもあります。

これによると、私たちのプライバシーは、神様の前で全て知られていることを意味します。16世紀以降の宗教改革者たちも、自分の全てが知られているという緊張感のなかで、その人生を送ったことが知られています。

ところが、現代のキリスト教会では、最近のデジタル技術の恩恵と危険性について、語ることは乏しく、聖書に基づき、この課題に真剣に向き合っているようには、私には思えないのです。

GAF Aというのは何でしょうか。グーグルは、もともと検索ソフトで、私たちの発するあらゆる質問を栄養にしています。アマゾン は、もともと電子商取引であり、あらゆる人々の購買ニーズで成長します。フェイスブックは、人々の交流サイトで、SNS一般とは異なり、自分の身元を明示し参加する人々によって成長しました。アップルは、パーソナル・コンピュータのメーカーとして台頭し、日常の必需品となるデジタルな機器を開発し、あらゆるサービスに参入します。

GAF Aの成長の共通性は、3つのF、即ち公平さ(fair)、迅速さ(fast)、そして、面白さ(fun)と言われます。これは本当なの でしょうか。これらがプラットフォームと呼ばれるのは、それぞれ、概ね10億人以上の人々をカバーしてからのようです。

「メガ・プラットフォーム」であるのは、これらがインターネット上の共通インフラであるだけでなく、これにアクセスできることが「人権」のようになった結果です。そもそも、インターネットにアクセスできないことが、私たちの潜在能力の発揮を困難にして、著しい不利益をもたらすように感じます。

こうして巨大な公益性を獲得した「メガ・プラットフォーム」の一つの問題は、GAF Aの膨大な収益に国家が課税できないことです。当該サービスの生産地でも消費地でも把握できず、国家の徴税権を免れたのです。こうしたデジタルなネットワークに対して、先進諸国は、共同して、課税を強化する方向に向かっています。

さらに、GAF Aの集めたデータを国際的な犯罪集団がハッキングし、膨大な個人情報が暗闇に流出することへの危惧も高まってきました。加えて、GAF Aが把握したビッグデータをもとに、人々の行動を誘導することになると、例えば、私たちの生き方や価値観まで、GAF Aが操作するのではないかという懸念も生じます。

人々の個人の人生と情報に関し、聖書は何を語ってきたのでしょうか。旧約聖書においては、古代の王国が軍事力を強化する際に、臣下又は兵士としての男性を把握する「人口調査」をたびたび用いています。これに対し神様は、人間の王国が強大になるために、神様の民の情報を利用することを快く思われていません。そこで神様は、いろいろな王国に対し飢饉や疫病や戦争をもたらし、これらを弱体化したことが語られます(例えば歴代史 I 21:9以下)。もしかすると、現代の情報技術の発達は、新たな「バベルの塔」のようなものかもしれないのです。

本日読んでいただいた新約聖書の箇所では、むしろ、私たちの通常に利用しようとするデータや情報が実は「真理」ではない可能性を示唆します。

注意すべきは、ヨハネによる福音書で語られる「真理」という言葉が、現代人が一般的に理解できる意味とは異なることです。

私たちは、データや情報が正しいと思えば、それを、安易に「真理」と誤解してしまいます。しかし、新約聖書で「真理」とは、生きておられる神様そのもの、あるいは、神様の言葉を意味するのです。

私たちは、近年、あふれるデータや情報によって、虚偽と真理を、区別することができなくなっています。データや情報によって神の民を操作したり、神の民を利用して利益を得る人間の行為への旧約聖書の警告を忘れるべきではありません。

ヨハネによる福音書で、「真理は、あなたがたを自由にするであろう」と言われるとき、「真理」とは、人々を、虚偽 (fake)から解放するものなのです。自分の目的だけのために情報やデータを操作し、特定の利益のために奉仕させるものであってはならないのです。

私たちのプライバシーの全てを知る存在は、神様以外にないことを、旧約聖書は、語ってきました。被造物には、一つひとつに、多様で知られることのない秘密が存在することこそ、神様の秩序なのかもしれません。これらを、人間の集めるデータ・情報に反映することは不可能で、真実を曲げて、踏みにじることは許されるべきではないのです。

同時に、世界で起きている「真実」を探り当て、明らかにすることができれば、人々をつなげる、新たな知恵を創造することに寄与できるかもしれません。

そもそも、メガ・プラットフォームが成長できたのも、人々の信頼という基盤が得られたからです。情報・データが、何等かの利益だけのため、人々を操作する道具になっているなら、プラットフォームは存在し得ないのです。グローバル化した世界において、国境を越えて、人々を開放する重大な役割を担わされているかもしれません。

コロナ危機のなかで、経済的又は社会的な格差の拡大が危惧されます。隠された真理を明かにすることで、人類が変わることができ、新たな知恵を創造して、破滅を回避し、行動を起こせるなら、私たちに、新たな希望が生まれてくるでしょう。